



スカウト 浄土

The Scout Jōdo

スカウト運動と宗教(Ⅱ)

— 浄土宗スカウト仏教章研修会 —



第43回 浄土宗スカウト仏教章研修会 平成12年3月27日～29日 於、東京 祐天寺

仏教章研修会が変わります 事前研修が必修です

第26回浄土宗スカウト 指導者研修会開催される

これまで、浄土宗スカウト連合協議会主催の「仏教章研修会」は各隊(団)での事前研修課題は設けていませんでしたが、他宗派の研修内容検討や日程の見直しにより、平成十二年三月開催の「仏教章研修」から必ずスカウトが事前研修を受けなければ研修を受講出来ないことになりました。

そのため、事前研修を実施していただく各隊(団)の指導者の方々と並びに仏教章申請の教導職の方々に、その課題の内容、指導の方法、ポイント等をご理解いただくために、指導者の為の研修会を開催したものです。

会場は、第四十三回浄土宗スカウト仏教章研修会を開催することになっていた東京目黒の祐天寺で、平成十一年八月二十八日から二十九日までで全国から十五名の参加者があり熱心に受講され、変更になるポイント等について質問していました。

第43回浄土宗スカウト 仏教章研修会開催

研修の内容が変わってからの初浄土宗スカウト仏教章研修会が東京目黒の祐天寺を会場に、平成十二年三月二十七日から二十九日までの三日間で、これまでの仏教章研修会より日数が短縮されたのと会場の利便がよくなったこともあり参加者も五十人とこれまでにない多数の研修会になりました。

内容的にも事前研修を終えて参加していることもあり、いい意味でこれまでの研修会とは違



講義風景



日常勤行実践

うものになりました。反面事前研修を指導された教導職の方々には負担がかかっていたようです。

参加者の感想文のとおり、これまでになく参加者全員が真面目に講義を受け、帰教式に参加していました。

事前に研修していただく各隊(団)の指導者の方々、教導職の方々には負担をおかけすることになります。スカウト連達のためよろしく願います。

仏教章研修会感想文

—全体について—

所属団 BS富里第一団

岡村 恒紀

① 仏教章研修会全体について

今まで疑問に思っていたが、宗教・宗教とは何かということが、事前研修から始まった仏教章研修会を通して少しずつ理解できるようになった。

② 「仏教」について

世界三大宗教の一つで二千五〇〇年以上の歴史を持つ仏教を知る中で、世界中の多くの人間の精神の深くに根づいている、何かを漠然とだが理解できた。自分が仏陀に近づいたための活動をするかは分からないが、一つの知識や知恵として自分の指針の一つにした。

③ 「法然さま」について

「南無阿彌陀仏」という誰でも言える言葉をひたすら唱えるだけで全ての人が救われる教えを開いた人物として、大変な業績を残した人だと、あらためて実感した。

④ 「阿彌陀さま」について

世界中・宇宙中全てのものを、差別なく包みこむ仏ということを知り初めて知ったが、今までそういう仏が目に見える方では存在するはずがないと思っていたが一人一人の心の中にあるものだ

と知った。

⑤ 「帰敬式」について

自分自身も仏教徒になったんだということが感じられた。

⑥ 「オリエンテーション」について

おほうさんの現実をリーダーと話した中で知ることができ、うれしかった。

⑦ 「自分自身がこの研修を終え

今後のスカウト活動に如何に取り組むか」を述べよ

富士スカウトとして、より一

層ちかいくおきてを實踐できる条件が整ったので、後輩を指導していく上でもスカウトとしての自身を持って、自分の後に続く人がどんどん増えていくように努力する。

所属団 GS滋賀第六団

磯田 紋奈

① 仏教章研修会全体について

講義がたくさんあってけっこう大変だった。(しんどかった)でも全体的には時間がたつのがとても速かったです。色々勉強になってよかったです。

② 「仏教」について

仏様が教えてくれたこと教え伝えられていること。学校の仏教の授業でも浄土宗のことは勉強しているけどとても難しい。

③ 「法然さま」について

たくさんのおきびしい修行をしてたくさんの人々に伝えた人。

④ 「阿彌陀さま」について

みんな人を選ばずどんな人でも念仏をと念えと見まもっていてくれる。

⑤ 「帰敬式」について

すごい緊張したけどなんか気持ち引きました感じがする。

⑥ 「オリエンテーション」について

じゃんけんを列でまわしていくゲームが楽しかった。また団に帰って機会があればみんなやってみたい。

⑦ 「自分自身がこの研修を終え

今後のスカウト活動に如何に取り組むか」を述べよ

できる限り団のお寺に行ってみる限りのお手伝いやお寺のそうじなどもしていきたい。それからできるだけサタデースクールにもまたジュニアリーダーとして参加したいです。

所属団 GS長野第三十六団

入間川安起代

① 仏教章研修会全体について

はじめは、「二泊三日って長いなあ……」と思ってたけど、今(3/29 10時19分AM現在)思うと、短かったな……と思った。

② 「仏教」について

釈迦は本名じゃないとか、知らなかったのが参考になった。自分の家の宗教だけど、まだまだ知らないことがたっぷりある

ような気がする。

③ 「法然さま」について

歴史の授業とかでいろいろ習っててひととおり知ってたけど、浄土の教義などは知らなかったの、知ることができてよかった。

④ 「阿彌陀さま」について

釈尊とは別人だったことが分かった。(というより、今までお釈迦さまと阿彌陀様の区別がついていなかった為。)

⑤ 「帰敬式」について

暗くて少し怖かったけど、仏の子として生まれ変わることができたので、それはそれで良かったと思う。灯がきれいだった。

⑥ 「オリエンテーション」について

目黒のおじいちゃんおばあちゃんももの叩き上げをやったあとでかならず「ヨイショー!!」と絶叫すること。飯田にそんな人ひとりもない。(冬でもやってみるのだろうか……謎)

⑦ 「自分自身がこの研修を終え

今後のスカウト活動に如何に取り組むか」を述べよ

恩返しのもつりで奉仕をする、今までは違った心で奉仕をすることができると、教えていただいたので、すべての人への恩返しができるように取り組みたいと思う。

また、常に信仰心を持ち、いつまでも心の灯を消すことがないようなスカウトでありたい。

— 帰敬式について —

所属団 GS長野第六団

安 静 智 子

① 仏教章研修会全体について

三日間、すごく短かったけど、楽しかった。講義が毎日たくさんたくさんあったけど、楽しい話がたくさんあって飽きずに聞けました。ラジオ体操はすっきりさわやかでした。

② 「仏教」について

佛陀があて字だということを知ってびっくりした。仏教が生まれてきたのは、シッダルタが王子でいろいろなものを見て悩んだことからだと分かった。

③ 「法然さま」について

法然さまのお父さんはすこいと思つた。自分が殺されたのに、決して敵を恨んではいけないという考えで、それが法然上人になつたんだなあ。と思います。

④ 「阿彌陀さま」について

南無阿彌陀佛の意味が分かった。初めて、南無阿彌陀佛のなかに阿彌陀の文字があるのが分かりました。

⑤ 「帰敬式」について

とても厳かな雰囲気、お香の香りがしてきそう。すこいきれいな式でした。

⑥ 「オンエンディング」について

ラジオ体操すっきりさわやか。朝のさわやかさを思い出しました。しっかりと体操できてよかったです。

たです。いっぱい友達できてよかったです。

⑦ 「自分自身がこの研修を終え

今後のスカウト活動に如何に
取り組むか」を述べよ

これからのスカウト活動では仏の子供として、周りの人のことをよく考えて行動できるようにしたいです。今まではあまりボランティアなどしなかつたけど、そういうことにも積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

所属団 BS佐倉第二団

布施班 藤 倉 禎

この帰敬式は、今まで僕が参加してきた宗教儀礼とは、全く違う感じがした。何がどう違うかというところ、まず、本堂に入った時、いや、入る前から空気が静かで、全身がビリビリするよくな気がした。そして、参加している人達の気持ち、心が一つになつて、「南無阿彌陀仏」と唱えているのがわかった。僕は、隊長等いろいろな人達の指導を思い出して、他の人に負けないくらい真剣に取り組んだ。

僕は、この帰敬式を通して、宗教が今まで思っていた以上にすばらしいものであることと、スカウトイングと宗教の間わりが少しは分かったような気がした。明日から僕は、また、普通の生活にもどるが、これから一日最低一回は、「南無阿彌陀仏」

と言ったり、心の中で言ったりしようと思ひます。

所属団 BS有田第一団

精進班 相 原 亮

こんな大切な儀式に今日出させていただけで一つ心に決めたことは、これから浄土宗を信じ、念仏を毎日一回は取り組みたい。そんな気分になりました。事前研修から今回の研修を受けて、どんどん興味・関心がふくらみ将来お坊さんになつてもいいくらい感じになりました。

今日から仏教を信じていることができるようになったこと、いままでの知識をこれからいかし、これからは地元の寺などにかまひもつと勉強してみたいと思ひました。

所属団 BS塩釜第四団

忍辱班 八 巻 英 幸

今日の帰敬式はこの二日間仏教について学んだことのまとめの様な式だと思ひました。作法は完全に覚えきれず、間違える所が何ヶ所かありましたが、大方は手順通りできました。歌は何とか歌えました。これと似た式は昔に何度かやったことがあったのですが、夜に暗い中でするとするのは初めてだったので新鮮な感じがしました。

それに暗い中で沢山のろうそくに囲まれた仏様がとても輝いていて感動しました。

また、この式を通じて仏様の子供として生まれ変わったことで、心に消えない灯がともり、これからの生活の中でもお念仏を大切にして、仏様の教えをスカウト活動の中で生かしていきたいと思います。

所属団 BS富里第一団

精進班 岡 村 恒 紀

十一才の時に妹を亡くして以来、神や仏とは何か、信仰とは何かと考え続けてきた。毎日仏壇の前で数回念仏を唱えることはしてきたが、宗教とは何なのかは理解できずにいた。この研修会の中で浄土宗の教えについて学び、お経の唱え方や念仏の意義等を知り、この浄土宗とは何なのか少しは理解できたと思ひます。帰敬式を終え、自分自身、浄土宗の道に入り、今まで唱えたことのないほどの量の念仏を唱え、厳肅なムードの中で仏法僧に帰依することをちかつかつたこと、あらためて、今までスカウトとして「仏と国とに誠をつくし」てきたかどうかを考えさせられた。しかし、これからはスカウトとしてちかいかいを実践にも実行していけると思う。今後、富士スカウトとして、より一層スカウトとしての活動を見られていく上で、大変よい機会だった。

総本山知恩院に

スカウトによるおとしぎ運動奉仕団

(辰野第一団)

知恩院おとしぎ

運動奉仕団に

参加して

日本ボーイスカウト連盟
辰野第一団ボーイ隊長

岩田 文彦

指導者としてボーイ隊長スカウトに願うことは、日常生活の中で、常に「おきて」を基本に行動して欲しいということである。

ボーイ隊長スカウトは、入隊式で八つのおきて「誠実」「友情」「礼儀」「親切」「快活」「質素」「勇敢」「感謝」を宣言する。

これらのおきては、スカウト特有のものではなく、人間として生きていく上での基本行動を指針したものである。

八つのおきての中で、根底をなすおきては「スカウトは感謝の心を持つ」であると私は思う。このおきての持つ意味は、常に身の回りにあるもの、できごとで感謝し、感謝の気持ちを持って自分のできることを実践しなさい。それは奉仕の心である。平成11年の晩秋、辰野第一団

のスカウト、指導者、保護者に思いがけない幸運が訪れた。京都知恩院でのおとしぎ運動への参加である。

知恩院に到着し、境内を歩いていた時は若干緊張気味であったスカウトの顔も、拝殿の拭き掃除、勢至堂前の落ち葉掃きと、一生懸命働くうちに自然と子どもらしい、優しく、生き生きとした顔になってきた。大勢の参加者がいる中で、黙々と働く子ども達をこんなに謙虚にさせているのだろうかと思わず考えてしまった。

知恩院の中を流れる雰囲気のせいだろうか。それとも知恩院にきて、私自信が謙虚になれ、スカウト達をスカウトの視線で見られるようになったせいなのか。

国宝「鶴の間」での記念撮影、日本一の大鐘樓、山門などの重要文化財の見学、モンゴルの馬頭琴の生演奏など、知恩院での貴重な体験に加え、京都27団、栗太9団との交流会と楽しい時間を過ごすことができた。

今回の団行実施にあたり、大変お世話になった地元辰野町の長久寺のご住職岩波様、知恩院の上人の皆様、京都27団、栗太9団の指導者、スカウトの皆様にご心より感謝申し上げます。スカウトの帰りを待つ、ご家族の皆様へのスカウトの最高のおみやげは、京都名物の八つ橋でもなく、京漬物でもなく、精神的に成長したスカウトの姿だと確信している。



京都特別遠征に

参加して

辰野第一団カブ隊

横川 泰大

京都では山門にのぼったり、知恩院で奉仕をしたり夜のお寺の見学をしたり、うずまさ映画村の見学をしましたが、一番の

思い出は、夜に京都の団と、しが県の団と交流会をした事です。最初に各団のしようかいがありました。続いて、自こしようかいがありました。ほくはきんちようをして、小さな声で早口になってしまいました。ほくたちは全員で県歌の信濃の国を歌いました。バスの中で何回か練習したのでうまく歌えました。それから特産物の交かんをしました。辰野の団はりんごのふじを一人一つずつわたしました。かわりに京都げんていのまっ茶コロンとまっ茶アポロをもらいました。ほかのおかしをもらった人もいました。

最後にゲームをしてあそびました。体をうごかすゲームで、円の中心にねた人がロープをまわしロープにあたらぬようにジャンプしてあそぶゲームはおもしろかったです。



ペンの全国リレー

スカウトに聞かせる話

その10

アンノンスカウト

理事長

深 逸 郎

かつて日本連盟の総長であった三島通陽氏の随想録「音なき交響楽」を見ると、その冒頭にアンノンスカウトという一文とアンノンソルジャーというお話が紹介されている。

一九〇九年ある冬の夜の事、アメリカの有名な出版業者であったウイリアム・ボイス氏が濃霧のロンドンで行く先がわからず途方に暮れていたとき、一人の少年が現れて「僕が案内しましょう」と、きびきびとウイリアム氏の靴を持って案内してくれた。ウイリアム氏は大変喜んで、アメリカの習慣にしたがって、チップを渡そうとすると、その少年は「お礼はいただきますせん、僕はスカウトですから、よいことができてよかったです、僕に善行をさせていたいただいてありがとうございます」という言葉を残して霧の中に消えていったのです。此の少年の態度と行動に感動

したウイリアム氏は、イギリスで始まっていたボーイスカウト運動の資料を持ち帰り、早速アメリカにもボーイスカウトを設立しました。

これがきっかけとなってスカウト運動は世界中に広がることとなったのでした。こういうわけで、ウイリアム氏を案内して、「僕はスカウトですから、よいことができてよかったです」と自分の名も告げずに霧の中に消えていった少年の事を「アンノンスカウト」と呼んで語り伝えていくのです。二つめのお話は第二次世界大戦のさなかのこと、南太平洋の小きな島でアメリカ軍と日本軍が死闘を繰り返していたときの事です。

モがその包帯に挟んであったのです。「あなたは三指のスカウトサインをして倒れていました。僕も子供のころはスカウトでしたから兄弟だと思つて手当をしておきます」

戦争が終わった時、そのアメリカ兵は、自分を助けてくれたこの日本兵を探しました。ボーイスカウト日本連盟も協力して探したのですが、ついに「それは私でした」と名乗る人は現れませんでした。その日本兵は、わざと名乗って出なかつたのでしようか、あるいはまた戦死してしまつたのでしようか。

此の日本兵のことをアンノンソルジャーというのです。心にしみるお話ですね。

さて、これはもう少し軽いお話なのですが、浄土宗スカウトの皆さんに紹介しておきたいお話があるのです。

平成十年の夏、久住高原で開催された第十二回日本ジャンボリーの時の出来事です。私たち浄土宗スカウト関係者も、大会の日曜日に行われる宗教儀礼のために、浄土宗当局の江口社会局長も同行して下さって現地に参加しました。

アリーナーで行われた仏教行事もすみ、其の後の各宗行事としての浄土宗だけの礼拝行事も

終わって、私たちが宗教部に引き上げますと、本願寺派のリーダーが私に言うのです。「いやーまいったまいった。さっき浄土宗のスカウトだというのが来てねえ、都合で日曜礼拝に参加できなかったので浄土宗の礼拝パンフレットと記念品がほしいというのですよ。」

浄土宗の人たちは今此処におられないので記念品やパンフレットがどこにあるかわからないけれど、本願寺派のならここに あるからこれをあげようと言うとねえ、それはいいやと云ってもらつてくれないうすよ。

僕は浄土宗ですから浄土宗のパンフレットと記念品がほしいのですと言つてうちの記念品はもらつてくれんです。まいったまいった。

私たちはそのスカウトがもう一度来てくれるのを待っていたのですが、或いは正式参加ではなく見学のスカウトでもあったのでしようか、ついに再びあらわれませんでした。「その時の浄土宗スカウトは私です」という人が現れないものかと、今でもこころまちにこの一文を書いていますが、とりあえずこのスカウトを「浄土宗のアンノンスカウト」という事にしておきましょう。

その11

「林間に浸み入る鉦講念仏のこゑ」

〜スカウトを中心とした西方寺鉦講念仏の話〜

ボーイスカウト草津一団団委員
浄土宗スカウト連合協議会常任理事

牧 達 玄

「ナアアアアア・ムーウアア
ア・アアアアア・アアアア
ア・アアアアア・アアアア
ア・アアアアア」
「ナンマイダーブツ・アンアン
アンファイ」
「ナンマイダーブツ・ナンマイ
ダーブツ・タタタタタタ……」

平成十二年三月五日。ボーイ

スカウト滋賀連盟草津一団、ガ
ールスカウト滋賀二十三団が置
かれてある草津市青地町の西方
寺御忌法要に於いて可愛らしく
そして一風変わったお念仏のこ
えが響き渡りました。西方寺子
ども鉦講によるお念仏の奉納で
す。

一風変わったお念仏とは、「西
方寺歌念仏」といって、浄土宗
スカウトならいつも称えている
「南無阿弥陀仏」の御名号を、
鉦と太鼓を叩きながら、お寺に
代々伝わる独特の節で称えるも
のなのです。年少のスカウトは

知らないでしょうが、リーダー
の方々は、岡山県の那岐山にあ
る研修センターを中心に行われ
た「浄土宗スカウト連合協議会
発足二十五周年記念全国大会」
でイベントの一環として草津一
団のスカウト、リーダーが奉納
したことを覚えておられると思
います。

さて、この鉦講念仏ですが、
滋賀県では、湖北・湖東・甲賀・
野洲・湖南・湖西というほとん
ど全県下の浄土宗のお寺で盛ん
に行われていますが、他の県で
はあまり馴染みのないものかも
しれません。なぜ、滋賀県を中
心に盛んなのかといえますと、
それはこの念仏の起こりに関係
があるからなのです。即ち、今
から約四二〇年前（一五七九年）
に、滋賀県の安土の浄厳院とい
うお寺で、当時の権力者織田信
長の計らいの下、浄土宗と法華
宗の法論（どちらが優れた教え

か議論すること）があり、浄土
宗に軍配が上がりました。

もとより、同じお釈迦様が説
かれた教えに優劣など有るはず
はないのですが、何事にも優劣
を付けたがる信長の裁決が下さ
れたのでした。このことを喜ん
だ当時の浄土宗の信者の人々は、
浄勝寺（浄土宗が勝ったという
意味の寺）を県下各地に建立し、
「勝ち関念仏」として鉦講によ
るお念仏を創作し称えられまし
た。また、その時法華宗の僧侶
から奪ったお袈裟が、敦賀の西
福寺というお寺に今も大事に残
されているそうです。

さて、このようにして出来た
鉦講念仏は、その後、県下各地
に拡がり、時代と共にその土地
土地で独特の節を付け現在まで
称え継がれてきました。大体、
今は「六十字話念仏」あるいは
単に「六十字話」「六字話め」
と呼び慣わされて、お寺の御忌
法要や十夜法要あるいは通夜や
中陰それに年忌法要において盛
んに称えられています。

西方寺に於いてもお寺の青年
会の方を中心に、この四百年に
渡る法灯を受け継ぎ、また、他
のお寺では聴くことの出来ない
「西方寺歌念仏」という独特の
節を持つお念仏を継承してきま

したが、昭和五十年代の終わり
頃、一時、講員の数が減少し継
承が難しくなった時期がありま
した。そこで、当時シニアスカ
ウトの年代であった青年を中心
に、この伝統文化を守っていい
こうという気運が盛り上がり、講
員のOBの方に練習をつけても
らい、約一年後ようやく年中法
要のお参りの方々の前で鉦講念
仏を披露し仏前に奉納する事が
出来ました。その後約二十数年
に渡りスカウトを中心とした鉦
講念仏が続いています。そして
今では青年男子のスカウトのみ
ならずビーバースカウトからガ
ールスカウトの子ども達にいた
るまで数多くのスカウトが参加
し、鉦講念仏の声を林間にこだ
まさせ、伝統文化を守るべく、
楽しく元気にそして厳かに称え
ています。

来るべき二十一世紀は、心の
時代あるいは地域、家庭におけ
る宗教的雰囲気、情操の見直し
の時代だといわれています。ボ
ーイスカウト草津一団は今年五
十周年を迎えますが、ガールス
カウト滋賀二十三団と共に手を
携えて、これからも宗教的雰
気の中、真のスカウト精神を学
ぶべく頑張っていきたいと思
います。

今11月の団では...

各地のスカウトだより

『今年の活動』

ボーイスカウト大田第一団

今年には県大会という大きな目標があります。島根県連盟創立五十周年記念大会となり、今、準備に入っています。特に大会会場が私達の地元の国立公園三瓶山の野営場での開催ですので、私も準備委員として、また大会中は、ボーイ担当の役員として奉仕することになっており、これから忙しくなります。

大田一団からはカブとボーイの参加ですが、大会参加費や装備品に相当な費用がかかりますので、リーダー達と相談して、三月二十一日に、スカウト達が家庭の不要品を持ち寄り、フリーマーケットを開きました。それで参加費や装備費が調達できました。あとは、スカウト達の訓練です。大会では、いろいろな競技がありますので、優秀な成績を残すべく、頑張っています。



『五十年より』

さらに一歩

ボーイスカウト台東第四団

わが台東第四団は、昨年発団五十周年の行事、記念式典、団合同キャンプを盛大に終了し、新たな歴史を重ねるスタートを切りました。記念行事では、団のモットー「和」を實踐し、団内の結束を固めることへつなげることができました。今年度は、種々の活動を通して、団家族として、より確実な歩みを続けて行くことが大きな課題です。

台東第四団は、団行事が充実しています。特に「台四祭」が人気のプログラムです。「おもちつき大会」にバリエーションを加えて、楽しい体験へつなげ、また下町らしい内容で「縁日」や「夏祭り」を実施したりしましたが、数年前まで毎年行っていた「団合同ハイキング」を復活したいという希望が多く、実現に向けて準備中です。ぜひ実施をして、ボーイスカウト大切な指導の手だて、縦割りグループを活かし、野外活動を満喫し、スカウトが素晴らしい体験を重ね、団の歴史を確かなものと

していきたいと、希望は大きくふくらみます。

『私達の団』

ボーイスカウト

大阪第七十一団

ボーイスカウト大阪第七十一団

昨年は当団の創設者である大長寺住職、西田亭心が、大阪連盟総会に於て、永年に亘る、育成会長として、「県連感謝章」を授けられました。

又、大阪連盟五十周年記念ジャンボリーが八月に神鍋高原にて開催され、ボーイ隊が全員参加しました。

今年には、スカウトの登録人員が減少し、新入隊員の募集にも苦勞する事が予想される反面、リーダー達の一念發揮し、ウッドバッジ研修所に四名が入所、ウッドバッジ実修所にビーバー隊大塚裕子、ボーイ隊伊藤茂両氏が入所し、隊の運営面の充実が見込まれます。

団の行事も新しい企画を検討の必要が望まれますが、公共奉仕の緑の募金、京都から本部までの夜間ハイイクを四月に実施、入団上進式も昨年も好評だった一泊団キャンプ、年末には恒例のバザー、餅つきを実施したいと存じます。

『発団五十周年を』

迎えて

ボーイスカウト華津第一団

昭和二十五年十二月（一九五〇年）に栗太第一隊として華津市青地町の西方寺を拠点として発隊しボーイスカウト活動を続けて参りました。本年の平成十二年（二〇〇〇年）には発団五十周年を迎えることになりました。

この半世紀に及ぶボーイスカウト運動を華津市青地町の西方寺（住職 牧野雄一 知恩院執事長）を中心に志津学区を活動地域として展開できたことを心から感謝申し上げる次第でございます。

半世紀に亘ってボーイスカウト運動を浸透させ、健全で豊かな青少年の育成が地域社会に貢献してこられたことを改めて誇りに思っております。

今後とも引き続き一層の精進をして参りますので皆さんの格別の御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

『発団三十三年を』

むかえて

ガールスカウト山口県第二十三団

京都知恩院のお手つき運動に参加して発団した私たちの団は、今嬉しいことや、淋しいことが

重なつて、集会が大にぎやかです。

当初ジュニア部門で発団した私たちは、十七年前、県支部主催のブラウニーラリーを機に、ブラウニー部門が誕生し、そのブラウニーさんが、ジュニア、シニア、レンジャー、アダルトとして活動し団を支えてくれました。県大会、支部研修会、中国地区大会、全国大会等、先輩、後輩仲良く参加、特に仏教章研修会は、熊本、法然寺と参加しました。アダルト部門になってからは、休みを利用して後輩の指導に当り若き良きリーダーとして活動してくれました。此の度、そのお姉さんが結婚して新しい生活に発されることになりました。淋しい中にも嬉しいことです。又続いて淋しいことは、お父さんの転勤で、ブラウニーさん、ジュニアさんが転出して行きました。

二〇〇〇年は、山口県にG.S.が誕生して五十周年です。山口県G.S.五十周年記念キャンプ大会が（七月二十一日から四泊五日）開催されます。今準備真最中です。長野県戸隠キャンプ場、野尻湖周辺、国立妙高少年自然の家等、大自然の中で三五〇名の友といっしょに参加します。夢に向って、大きくとんでいこうと思っています。

おめでとう 発団五十周年

浄土宗スカウト連合協議会の日本ボーイスカウト熊本県連盟水保第一団、日本ボーイスカウト東京連盟台東第四団・目黒第一団の仲間が、今年相次いで発団五十周年を迎えました。おめでとうございます。素晴らしい記念誌を頂戴しました。そのなかから水保第一団への浄土宗スカウト連合協議会漢語部理事長の祝辞を抜粋してご披露します。

輝け

浄土宗スカウト連合協議会

理事長 深 逸 郎

ボーイスカウト日本連盟教育規定の第十四条には「すべての加盟員が、それぞれ明確なる信仰を持つ事を奨励する」とあります。

又、此の運動の創始者であるBP御は「スカウトに信仰がなかったら、それは単なる術使いに過ぎない」「スカウトは神のチームの一員として行動するのだ・・・」という言葉を残しておいでになります。これは、宗教を抜きにしたスカウティングとなつたのではないのだと言ふことなのであります。そういう

意味において我々宗教スカウト団こそが最もスカウト運動にふさわしいスカウト団であると言ふことができるのであります。

その心にみ仏を宿し、口にみ仏の名を唱えながら、一步一步を踏み締めるスカウトの道こそが本当のスカウトの歩みなのであります。

仏教では、修業者のことを「菩薩」といいます。スカウトの歩みも又、立派なよりよき人生を歩もうとする修業者の道、つまり菩薩の道でありますから、世の中のためにより大きく役立つ

事のできる人になることを目指して、精一杯に頑張ります。

「なむあみだぶつ」と唱えながら頑張っていると、知らず知らずのうちに、阿弥陀様がお導きくださって、その人の心を立派なスカウトに育ててくださるのです。そうすればきっとペーデンパウエル御も褒めてくださる事でしょう。お父さんやお母さんもお先祖様も、みんなみな喜んでくださるでしょう。そうして、一人一人のスカウト諸君の人生が光を放つのです。また自然にそのスカウトの班も隊もその団も輝くのです。

ボーイスカウト水保第一団創立五十周年おめでとう。

この記念すべき年に団の歴史を受け継いだ現団員の皆さん、団の光がさらに輝きをますますよう、力をあわせて頑張ってください。心から心から、おめでとうと弥栄の声を送ります。

「いやさか!!!」

お願い

皆様の団で記念行事等開催いたしましたらスカウト連合協議会までお知らせ下さい。



いずれも立派な記念誌でした

水保第一団

台東第四団

目黒第一団

栄誉を讃えましょう

浄土宗仏教章授与スカウト

(平成十一年五月〜平成十二年一月)

団	人数	発送日	氏名	寺院名	教導職
上田	1	11. 5.18	保田 啓太	呈蓮寺	横内 浄真
上田	1	11. 5.18	柳沢 拓哉	呈蓮寺	横内 浄真
松山	15	11. 5.26	西本 憲祐	不論院	村岡 正道
鈴鹿	1	11. 6.25	小山 勝弘	浄安寺	宮里 祐史
鈴鹿	1	11. 6.25	市川 真悟	浄安寺	宮里 祐史
水保	1	11. 8.17	竹田 耕岳	西生院	浜田 義靖
水保	1	11. 8.17	井手下 新一郎	西生院	浜田 義靖
水保	1	11. 8.17	坂崎 友幸	西生院	浜田 義靖
水保	1	11. 8.17	山下 和利	西生院	浜田 義靖
水保	1	11. 8.17	吉水 昇平	西生院	浜田 義靖
水保	1	11. 8.17	石塚 隆幸	西生院	浜田 義靖
水保	1	11. 8.17	西田 浩平	西生院	浜田 義靖
八代	5	11.11. 9	鶴田 幸喜	盛光寺	勝部 秀信
松山	30	12. 1. 7	小野 浩平	不論院	村岡 正道
松山	15	12. 1. 7	三浦 隆浩	不論院	村岡 正道
松山	15	12. 1. 7	越智 規文	不論院	村岡 正道

浄土宗スカウトが仏教スカウト 連絡協議会の担当宗派に

今年より二年間浄土宗スカウト連合協議会が仏教スカウト連絡協議会の事務局を担当することになりました。これはローテーションによるもので、真宗大谷派から五月八日事務引継をいたしました。早速5NVの宗教礼拝が待ち受けておりますので万全を期して会場となる久住高原の会場を、事務局から東海林・定永・村松の三名が、地元の前田師・西田氏の案内で視察してきました。

詳細はまだ決定していませんが、多勢の仏教スカウトの参加をお待ちしています。



平成12年3月下見の事務局員

編集室より

昭和五十年にスカウト浄土が発刊されてから二十五年の星霜を経て号数も二十号となった。

創刊は昭和五十年四月号で、開業八百年記念事業特集として発刊され、浄土スカウト連合協議会が結成されて丁度十年目だった。

発刊当初の写真を拝見すると響流十方を感じる。

創刊号の書き出しに、戦前の浄土宗のボーイスカウト運動は他宗に較べて群を抜いていましたとあります。一時その活動は停滞気味だったようですが、近年になって相次いで発団五十周年を迎える団が続いています。今年から浄土宗が仏教スカウト連絡協議会の担当宗派になりました。浄土宗スカウトの伝統と名譽にかけて二年間の義務を果たしてまいりたいと思います。何卒皆様方のご助力を御願ひ申しあげます。

スカウト浄土(第二十号)

発行/平成十二年三月二十日

京都市東区林下町

浄土宗事務局社会局内

浄土宗スカウト連合協議会

編集者/東海林 良 雲

印刷/利商印刷